

ともに



～「ともに」「つなぐ」小中一貫教育～
小城市立小中一貫校芦刈観瀾校学校便り
第11号 令和8年9月2日(水)
文責：副校長 深川 治孝

2学期がスタートしました!!

長かった夏休みが終わり、昨日から2学期が始まりました。7月の個人面談・三者面談におきましては、お忙しい中にもかかわらずご協力をいただき、誠にありがとうございました。担任と保護者様とで直接お話しする中で、子供たち一人ひとりの成長やご家庭での様子を知ることができ、私たち教職員にとっても非常に貴重な時間となりました。

さて、夏休み中、子供たちは大きな事故や事件に巻き込まれることもなく、元気に過ごせたようで安心しました。家族や地域の方々とのふれ合いの中で、普段はなかなか経験できない活動に取り組んだりして、心に残る夏の思い出ができたことだと思います。

また、自主的に学習に取り組んだという声も聞かれ、夏の経験が子供たちの成長をさらに後押ししてくれると期待しています。

さて、9月1日(火)は、登校してくる子供たちの明るい笑顔と元気な挨拶の声が久しぶりに校舎に響き、学校に活気が戻ってきました。やはり、子供たちの存在が学校を生き生きとした場にしてくれるのだと、あらためて実感しました。

熱中症対策のため、始業式は各教室へのオンライン配信で行いました。藤田校長先生からは、①自分から自分へとつなぐバトン、②仲間や異学年へとつなぐバトンの二つのバトンのお話がありました。「目標を立て、周りへの思いやりや励ましの気持ちをもって頑張りましょう。そして、6、9年生は、最上級生として集大成の、そして充実の学期にしていきましょう」という言葉に、子供たちはうなずいて聞いていました。

2学期は、小学部修学旅行・バス旅行や5年生宿泊学習、文化発表会など、子供たちの主体性や協力する力が求められる大きな行事が目白押しです。こうした機会を通して、学年や学級の絆がより一層深まり、それぞれが自分や自分たちの可能性に挑戦する学期にしてほしいと願っています。

引き続き、子どもたち一人ひとりの成長を見守りながら、保護者の皆様と共に、温かく、前向きな学校づくりを進めてまいります。2学期もどうぞよろしくお願いいたします。



熱中症対策について

今年の夏は、佐賀県も観測史上初めて40度越えの酷暑日を記録しました。一昔前に比べると、同じ日本、佐賀ではない気がしますね。

さて、暦の上では、夏の暑さが後退し始める「処暑(しょしょ)」を迎えました。しかし、実際には9月に入ってもなお厳しい暑さが続き、熱中症が心配される時期です。

学校では、教室のエアコン、扇風機を適切に使用し、こまめな水分補給を呼び掛けるとともに、体を動かす活動の際には休憩を取り入れるなど、引き続き予防に努めています。

登下校の際もまだまだ気温が高いため、暑さ対策をしっかりとお願いします。日傘を利用するときは、雨傘と同様、周囲への安全に注意し、必ず記名をして紛失防止に努めること、また壊さないよう丁寧に扱うことをお子様に伝えてください。

また、水筒については、しばらくの間は多めに持たせていただけると安心です。水筒が空になった場合は、校内の冷水器で補充することも可能です。学校からも継続して呼び掛けています。

ご家庭でも、十分な睡眠やバランスの取れた食事、室内の温度管理などにご配慮いただき、引き続き熱中症予防にご協力くださいますようお願いいたします。

防災週間について

毎年9月1日は「防災の日」です。これは、1923年9月1日に発生した関東大震災を忘れず、自然災害への備えを新たにするために定められた日です。最近では熊本地震も発生し、佐賀も大きく揺れました。決して他人ごとではありません。

この「防災の日」を含む1週間は「防災週間」とされ、全国で防災に関する行事や訓練が行われます。これらは、一人ひとりが災害への備えを見直し、実際の行動につなげることを目的としています。

学校でも、2学期は、地震・津波避難訓練を行います。各ご家庭でも、この機会にぜひ防災への備えを確認してみてください。家具がしっかり固定されているか、地震で落ちてくる危険なものがないか、非常用持ち出し袋の中身に不足はないかなど、身近なところから点検していただければと思います。